

第 1 回長門湯本温泉観光まちづくりデザイン会議 概要

日時 2017 年 6 月 12 日（月） 12 : 00 ~ 19 : 00

場所 長門市役所 3 階会議室

出席者

【デザイン会議委員】（■出席 □欠席）

- 泉委員 ■益尾委員 ■金光委員 ■矢儀委員 ■大谷委員 ■白石委員 ■山本委員 ■藤村委員（代理）
- 森野委員

1. 報告事項

（1）ハード整備の進捗について

金光委員より駐車場、竹林の路、竹林の階段、陶芸ゾーン予定地、飛び石・護岸、配湯タンク等の設計進捗状況について説明が行われた。

【駐車場】

- 昨年度まとめられた長門温泉観光まちづくり計画（H28 年 8 月）では駐車場を収益施設と位置づけていなかったが、今後事業者募集のなかでは収益施設としての位置づけを前提としていることから、ゲートの設置、ゲート内での一般車両の周回ルート確保、国道 3 1 6 号へ交通影響がでないための滞留区間の確保について検討を行った結果、駐車場の配置計画を変更している。さらに観光バスの乗入れを想定して 3 台分の駐車スペースを確保している。
- 敷地形状の制約などにより駐車台数 100 台を超えるような規模にすることは難しいと思われる。
- 現在でも大寧寺駐車場に観光バスは待機していて時間になると現地で乗降している状況があり、駐車場には観光バス駐車場は必要なく乗降スペースだけがあれば良いという考えもある。土地の利用可能面積を考慮しながら、駐車台数や観光バス駐車場のあり方について継続して検討を進める。
- 観光バスが乗り入れる場合はトイレを検討する必要があるかどうか、これから募集する管理者側の考えもあるため調整を行ったうえで、プロポーザルの仕様書に反映させ決定する。

【竹林の路】

- 具体的に石畳の材質や色、側溝の構造や植樹帯の検討を進めている。

【竹林の階段】

- 踊り場での休憩スペース（1,800×2,500+900 程度）を検討している。イベント時では物販が可能なスペースとしても利用可能である。。出店者にとっては広い方が良いという考えがあるかもしれないが、休憩スペースとしての利用目的もある為、具体的な使い方と合わせて考えていく必要がある。休憩場（または物販可能スペース）をあまり大きくしすぎると竹林の植樹帯幅が薄くなり竹林のそのものの魅力が損なわれる可能性があるため、引き続き検討を行う。
- 出店などを計画する場合は、電源や上水などの設備をあらかじめ設置することを検討する。

【飛び石・護岸】

- 上流側飛び石、雁木広場の現在の設計状況を報告した。

【配湯タンク】

- 様々な観点から検討を行った結果、タンク構造についてはステンレス製となる。但し、表面はステンレス素地のため温泉街の景観に馴染みにくいため、ラッピングや高木植栽などで周辺との調和を目指している。
- 模型などによる検討で、川側前面に高木を配置し、ダークブラウンのラッピングとすることを基本とする。
- 配湯タンクの大きさは周辺の建物高さやメンテナンススペース確保の観点から幅 6.5m高さ 5.5mとする案を基本として検討を進めている。
- 既存配湯池は塗装などで景観上配慮できるか検討中である。
- 配湯タンクの山側にも樹木を配置した方が良いと考えているが、保守・管理の面も含めて検討中である。

長門市より設計、河川整備等のスケジュール、恩湯解体工事等の進捗状況やスケジュールについて説明が行われた。

【設計スケジュール】

- 10月に基本設計が終わる予定。基本設計と同時進行で詳細設計を進める。
- 恩湯事業地周辺も陶芸ゾーン計画地と同様の考え方で開発許可を得ておく必要がある。周りの道路線形の決定、宅盤造成、排水計画は終えておく必要があるが、泉源広場や舗装などの詳細な設計については事業者が決定してから調整することが基本となる。
- 道路線形と事業用地が決定すれば、その条件をもとに開発行為許可申請を行い、事業者を募集する為、後々の変更等の対応は難しい。

【河川スケジュール】

- 現在想定している設計、施工のスケジュールを報告。

【恩湯の解体工事状況について】

- 屋根瓦の撤去が終わりこれから2階の解体に入る。
- 泉源調査業務も6月末頃から基礎の解体工事と並行して行う予定。

(2) Thanks ONTO 実施報告

大谷委員・白石委員より5月20日(土)に開催された恩湯感謝イベント「Thanks ONTO」の実施報告が行われた。

- 地元のエネルギーや経験値が素晴らしい、それにプロジェクトメンバーのディレクションが加わって非常に良いイベントとなった。
- 解体から始まるこのプロジェクトの最初の一步として、上手く始めることが出来たと思う。
- 8月中旬くらいに記念写真集ができる。
- イベントを行うと機材を搬入が大変である。機材搬入のしやすさや機材倉庫があると良い。

(3) プロジェクトコンセプトの策定について

泉委員より、プロジェクトコンセプトを考えるワークショップの実施報告が行われた。

- これから募集する事業者が長門湯本温泉をどうしていくか、プロジェクトのコンセプトを議論した。
- 今回のまとめた結果をもとに、もう一度話し合い、プロジェクトコンセプトを決めていく。

(4) 景観ガイドラインについて

益尾委員より第1回住民ワークショップ・第1回設計者・施工者ワークショップの実施報告が行われた。

- ワークショップではどういものが長門湯本温泉らしさなのか共有できた。
- ワークショップの内容は瓦版「ゆもと通信」としてまとめ、門前区・湯本区・三ノ瀬区に各戸配布を行う。
- 大きな建物にどのようなガイドラインを作っていくかは要検討。
- 本日夜に施工者WSを行う。プログラムは別紙参照。
- 次回の住民ワークショップは7月23日(日)を予定しているが、ルールづくりに向けての議論、建築外構に関する議論も予定している。
- 次回の推進会議までにガイドライン骨子を作成する。夜間照明との兼ね合いもあるが、守るべき長門湯本温泉らしさは概ね方向性が整理出来てきている。それ以外に付属屋のガイドライン等はこれから考えていく。また、リノベーションなどこれから作っていく建物のガイドラインが今後重要な検討事項になる。
- ワークショップでは門前区、湯本区、三ノ瀬区でそれぞれ特徴が違うという意見も出ている。同じルールにできるところと、それぞれの地区に応じてルールを定めるところの双方を検討していく。

(5) 温泉街全体の活性の検討について

矢儀委員より、白地エリアの活性化策としてスクール事業の検討について必要性の提示がなされた。

2. 協議事項

(1) コア事業について

泉委員よりコア事業の考え方について説明が行われた。

- この事業は収益をあげて地域に再投資することが重要。そのためにはコア事業がしっかりと収益事業になっていることが重要。
- 現在、湯量が少ないため使用されていない礼湯泉源を歴史的な資産として活用することも考えられる。
- 公共空間を使い倒すことが一番のポイント。恩湯・礼湯の敷地だけで勝負するのではなく、公共空間も活かしてそぞろ歩きができるようになることが、長門湯本温泉にしかない価値になっていくと思う。

(2) 広報戦略について

泉委員より長門湯本温泉観光まちづくりのプロモーション戦略について説明が行われた

- 市では一方的な情報発信となってしまうため、ディレクションをはっきりさせながらプロジェクト全体を発信する広報戦略が必要である。
- 事業者を集める視点でも、長門湯本温泉のプロジェクトが動いている状況が見えることが望ましい。